

『みんなの笑顔のために』

すばらしい演奏に感動！ 和水町小学校音楽会

11月5日（土）は、和水町小学校音楽会でした。全児童が和水町体育館にバスで移動し、専修大学玉名高等学校吹奏楽部（通称ベンチャーズ）のみなさんの演奏を聴きました。専修大学玉名高等学校吹奏楽部は、マーチングバンド全国大会に18年連続で九州代表として出場し、13回も金賞を受賞されています。活躍の場は日本だけにとどまらず、12月15日からは台湾で開催される「国際音楽フェスティバル」にも参加されるほどのです。そのように素晴らしいベンチャーズのみなさんの生の演奏やマーチングを間近に見ることができ、とても感動しました。しかし、感動したのはそれだけではありませんでした。当初、こどもたちは、2階席から演奏を聴く予定でした。ところが、是非できるだけ近くで演奏を聴いてほしいと、専修大学玉名高等学校吹奏楽部のみなさんが、私たちが体育館に到着する前に、児童の座る椅子を全て並べてくれていたのです。こどもたちの笑顔のために動いてくださった皆さんの思いにも感動しました。そのように思いやりの「心」を持ったみなさんだからこそ、素敵な「音」の響きを出せるのかもしれないと思いました。菊水小学校のこどもたちも、「だれかの笑顔のために」行動できる素敵な人に成長してほしいと願っています。



お客様のために自分に何ができるかを考え、行動することがとても大切であることを教えるくれるディズニーランドでのエピソードを紹介します。

『約束のお子様ランチ』

ある日、若い夫婦が二人でディズニーランドのレストランに入ってきました。夫婦は二人がけのカップル席に案内されると、「お子様ランチ2つ」と注文したのです。

ところが、ディズニーランドには、「お子様ランチは9歳まで」という決まりがあるそうです。キャストは、丁寧に頭を下げて言いました。

「お客様、大変申し訳ございません。お子様ランチは、大人の方がお召し上がりになるのには少なすぎますので、お子様限定のメニューになっております。」

それを聞いた女性は、がっくりと肩を落しました。

キャストは、女性がとてもがっかりしたのを見て、これは何か特別な理由があるのかも・・・と思い、思い切ってたずねてみました。

「お子様ランチはどなたがお召し上がりになりますか？」

女性は静かに話し始めました。

「実は、私達2人には子供がいたんですが、1歳のお誕生日を迎える前に、病気で亡くなったのです。生前、子供の病気が治って元気になったら、いつか3人でディズニーランドに行って、お子様ランチを食べようね・・・と約束していたんです。なのに、結局、その約束を果たすことができなかったんです。今日は、子供の1回忌なのですが、子供の供養のためにその約束を果たそうと思ってディズニーランドに来たんです。」



（→裏につづく）

キャストは2人に向かって深々と頭を下げると、

「かしこまりました。お子様ランチ、おふたつですね。それでは恐れ入りますが、お席を移動していただけますか。」

と言って、2人がけのカップル席から、ファミリー席に移動してもらいました。

そして、キャストは2人の間に、子供用のイスを準備すると、「お子様は、どうぞこちらに」と、まるでそこに子供がいるかのように導きました。

しばらくすると、お子様ランチを3つ持ってきて、子供用のイスの前に、3つ目のお子様ランチを置いて言いました。

「こちらはディズニーランドからのサービスです。ご家族でごゆっくりお楽しみください。」

2人はとても感激したそうです。そして、後日、ディズニーランドには、こんな手紙が届いたそうです。

「お子様ランチを食べながら、涙が止まりませんでした。私達は、まるで娘が生きているかのように家族の団らんを味わいました。」

(引用文献 「私が一番受けたいココロの授業」 比田井和孝 比田井美恵 著)